

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2017年6月1日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井直光

「神を畏（おそ）れ 人を恐れず 人に仕えよ」（神戸国際大学付属高等学校の建学の精神）

足を洗う —校長室の1枚の絵—

学校の廊下には生徒の作品や聖書にまつわる絵画が掛けられています。校長室には右の絵があります。菅原洸人さんという方の「弟子の足を洗う」という作品で、お孫さんが卒業生という縁で3年前に学校にご寄贈いただきました。モチーフとなっているのは、イエスが弟子たちの足を洗うというお話（「ヨハネによる福音書13章」）です。今年はイエスの復活を祝うイースターが世間でも話題となっていました。十字架に架けられたイエスが、息を引き取る数日前の木曜日の晩、イエスは12人の弟子たちと夕食を共にしました。「最後の晩餐」です。その時イエスはおもむろに立ち上がり、弟子たちの足を洗い始めました。当時、この地方では人々は素足にサンダル履きで、足は土ぼこりにまみれていました。その足を洗うのは、賤しい存在とされていた奴隷の仕事でしたが、後に裏切り行為にはしたユダを含めて12人の弟子全員の足を、イエスは洗い終わりました。そして次のように語りました。「あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互いに足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」



日本語の「足を洗う」は、僧侶が修業や托鉢から戻り、俗界の汚れを洗い清めたことが語源で、「悪事やよくない仕事をやめる」という意味で使われます。一方の聖書では、イエス自らが僕（しもべ）として弟子に仕える姿勢を示し、人に仕えることを説くとともに、神であるイエスが弟子たちの足を清め、神様は私たちと共に歩いてくださる、とお示しになったと解されているそうです。

冒頭に記した「神を畏（おそ）れ 人を恐れず 人に仕えよ」は、松蔭と同じ教会の流れにある聖公会関係学校で、この春も甲子園に出場した神戸市垂水区の神戸国際大学付属高校が建学の精神としている言葉です。信仰や信念、良心を心のうちに守り、その強さによって「人に仕えよ」というのです。この一文が持つ力には圧倒されるような感覚を覚えますが、日常生活で「人に仕える」意識をいつも持ち続けることは、私のような俗人にはエネルギーが要ることです。校長室で執務していると、ふとした拍子に上の絵が目にとまることがあります。この部屋で先生方と教育や学校について議論したり、生徒とあれこれ話したりしますが、この絵が伝える意味を折に触れて考えながら、より良い教育を目指して学校運営に努めたいと考えています。

「子どもは遠方にいる友人のように接しなさい」

先日の保護者おしゃべり会のテーマは「子どもに悩みを打ち明けられたら？」という内容でした。子どもが困っている時や悩んでいる時には、親が先回りして解決に動くことや、自分の不安を子どもにぶつけたりすることなく、冷静に子どもの心と向き合うことの大切さを話し合いました。

アルフレッド・アドラーという心理学者の学説が、アドラー心理学として十数年前から日本でもブームになっています。彼は、親や教師にとって羅針盤となるような言葉を多く残していますが、その一つが「子どもは遠方にいる大切な友人のように接しなさい」というものです。大人は、自分の感情に巻き込まれることなく、冷静に子どもと向き合うべきだと言っていると思います。校長室の絵に描かれた弟子の足を洗うイエスの姿を親の姿に置き換えたなら、親が子の足を洗うということは、我が子への愛情の証しであるとともに、謙虚に子に接する姿勢の大切さを教えてくれているように感じます。本校では5年前まで、「母親学講座」という小学生の保護者の方々を対象とした学びの会がありましたが、その際にいつも最後に紹介していたのが「親の祈り」という、カトリックの神父様が書かれた詩です。ご存知の方もおられると思います。親も教師も謙虚に子どもと向き合う大人でありたいものです。

「親の祈り」

神様、もっとよい私にしてください。

子どものいうことをよく聞いてやり、心の疑問に答え、子どもをよく理解する私にしてください。

理由なく子どもの心を傷つけることのないようにお助けください。

良いところを見させてください。良いところを心からほめてやり、伸ばしてやることができますように。

大人の判断や習慣で子どもをしぼることのないように。子どもが自分で判断し、自分で正しく行動していけるように導く知恵をお与えください。感情的に叱るのではなく正しく注意してやれますように。

道理にかなった希望はできるだけかなえてやり、彼らのためにならないことはやめさせることができますように。

どうぞ意地悪な気持ちを取り去ってください。こちらが間違った時にはきちんとあやまる勇気を与えてください。

いつも穏やかな広い心をお与えください。子どもと一緒に成長させてください。

子どもが心から私を尊敬し慕うことができますように。子どもの愛と信頼にふさわしい者としてください。

子どもも私も神様によって生かされ愛されていることを知り、他の人々の祝福となることができますように。

<ルイス・カンガス著「光と希望」（聖母文庫）より>

今年度のPTA役員の方々が決まりました。

役員をお引き受けいただいた皆様には、紙面を借りてあらためて感謝申し上げます。「できる人が、できる範囲で、楽しみながら一緒にPTA活動」がモットーです。お子様の入学というせつかくのご縁ですので、すべての保護者の皆様に、松蔭ライフをお楽しみいただければ、幸いに存じます。